

『活用上海語』におけるローマ字表記の音声研究

任 菲

A Phonetic Study of Roma-ji Notation in *Katsuyo Shanghaigo*

REN Fei

内容提要：上海自1843年開埠以來成為中外通商之重要港口，在滬經商的外國人若不懂上海話則舉步艱難。當時來滬的日本人不在少數，出現了一批供日本人學習上海話的課本。大川與朔的『活用上海語』初版于1924年，內容包括日常詞彙、用語及簡單的商業用語，可謂實用。書中用日語羅馬字為上海話注音。本文以1900年Davis D.H.與Silsby John Alfred共著的*Shanghai Vernacular Chinese-English Dictionary*所記上海話語音及將其音系轉寫為國際音標的錢乃榮《西方傳教士上海方言著作研究》(2014)中“1900年上海方言同音字表”和十九世紀二十年代語音分佈為參考，分析比較『活用上海語』中的羅馬字注音情況及當時的上海話語音狀況。

キーワード：活用上海語、ローマ字表記、音声研究、日本語発音
目次

1. 『活用上海語』について
2. 『活用上海語』のローマ字表記
3. 二十世紀初期の上海語音系
4. 声母の対応
5. 韻母の対応
6. 音節の対応
7. ローマ字表記の音声性質

参考文献

1. 『活用上海語』について

大川輿朔が編纂した『活用上海語』は大正十三年（1924）に上海至誠堂により初版された日本人のため上海語を学習する入門書であり、昭和十三年（1938）まで四版が発行された。筆者の調査の限り、四版の原本は東洋文庫に所蔵し、複写版は波多野太郎の『中国語学資料叢刊（第三卷第四篇尺牘・方言研究篇）全四卷』（1986）に収録され、本論文はそれを利用した。全書は「通俗用語」、「通俗用語問答」、「商業用語」の三篇に分かれ、内容は日常会話と商業用語、単語と簡句から構成され、ローマ字表記と日本語訳が付いている。各篇にはそれぞれの章と節がある。第一篇の通俗用語には十一章から成る。第一章～第八章は品詞（名詞、数詞、代名詞、副詞、接続詞、形容詞、動詞、疑問詞）により編纂された単語を収録し、第九章は簡句、第十章は田舎ニ用フル方言簡句、第十一章は文例である。第二篇の「通俗用語問答」は日常会話で、「問答」と「通俗用語問答解釋」の二章が含まれ、各句に番号が付いている。第三篇の「商業用語」には、「語彙」、「商業用語簡句及語例」、「商業用語問答」、「商業用語問答解釋」の四章が含まれる。

全書は縦書きで、問答生による序に述べたように“於每句下注以歐文之音、日文之解釋、分門別類。”ここでいう“歐文”は日本語のローマ字に基づくローマ字表記である。当時の日本で実用されたローマ字ヘボン式（Traditional Hepburn）は米国人ジェームス・カーティス・ヘボンの「和英語林集成」第三版（1886年）で定義された表記法である。ヘボン式はラテン・アルファベット26文字のうち、L・Q・V・Xの4字を除いた22文字を使用する。仮名表記は：あ a、い i、う u、え e、お o、か ka、き ki、く ku、け ke、こ ko、きゃ kya、きゅ kyu、きょ kyo、が ga、ぎ gi、ぐ gu、げ ge、ご go、ぎゃ gya、ぎゅ gyu、ぎょ gyo、さ sa、し shi、す su、せ se、そ so、しゃ sha、しゅ shu、しょ sho、ざ za、じ ji、ず zu、ぜ ze、ぞ zo、じゃ ja、じゅ ju、じょ jo、た ta、ち chi、つ tsu、て te、と to、ちゃ cha、ちゅ chu、ちょ cho、だ da、で de、ど do、な na、に ni、ぬ nu、ね ne、の no、にゃ nya、にゅ nyu、によ nyo、は ha、ひ hi、ふ fu、へ he、ほ ho、ひゃ hya、ひゅ hyu、ひょ hyo、ば ba、び bi、ぶ bu、べ be、ぼ bo、びゃ bya、びゅ byu、びょ byo、ぱ pa、ぴ pi、ぷ pu、ぺ pe、ぽ po、ぴゃ pya、ぴゅ pyu、ぴょ pyo、ま ma、み mi、む mu、め me、も mo、みゃ mya、みゅ myu、みょ myo、や ya、ゆ yu、よ yo、ら ra、り ri、る ru、れ re、ろ ro、りゃ rya、りゅ ryu、りょ ryo、わ wa。『活用上海語』に使用するローマ字は「ヘボン式」と一致する。独自の表記として、上海語の hu、si を fu、shi で対応する場合がある。なお、上海語の発音は日本語より数が多いため、『活用上海語』に使用される音節のローマ字表記はヘボン式より豊富である。例えば、bang、bong、bung、chang、cho、chiu、ching、chyang、die、dong、fa、fe、fi、fuo、fung、gang、gwe、hu、hung、huo、ing、iyu、je、jen、jeng、jiu、jing、jyu、jyang、kang、kwa、kwang、kwe、kwo、kwong、ming、myo、

nie、ning、nong、nung、nya、nyang、nyo、nyong、nyu、ong、pang、ping、pong、puo、pyo、rang、rei、ring、rong、ryang、sang、sei、seng、song、suo、shing、shong、ti、ting、tsua、tsue、tsuang、tsueng、tsung、tsuo、tsuong、tswong、vang、vong、wang、we、wi、wu、wo、wong、wn、yang、ying、yong、ywu、zang、zeng、zing、zong、zung、zuoなどはヘボン式に使用されないもので、『活用上海語』の編纂者が音声の対応性を高めるための新創と考えられる。

第二篇全篇と第三篇の第三、四章は問答と問答解釋の為、ローマ字の表記が付いていない。ローマ字表記のある章には、上海語・ローマ字表記・日本語訳がセットとして載せられ、単語、簡句の章は1ページに上下二セットが載せられ、文例は長いため、1ページにワンセットしか載せない。

上海語を表記する場合、仮名注音の代わりに、ローマ字使用のメリットは、補助符号が付けられる。更に、母音と子音がきちんと分けられ、ローマ字の子音がより上海語に近似し、母音も仮名より自由な組み合わせができる。ローマ字表記は上海語の音声をより繊細な処理ができて、仮名注音より優位だと考えられる。

『活用上海語』は日本人が上海語を自習するもので、ローマ字表記と日本語の解釈が付いているため、読者にとって非常に便利である。序は『活用上海語』の編纂目的、内容、特徴を以下のように述べている：

夫兩國通商，端賴語言。欲通語言，非有良好之讀本不為功。上海至誠堂有鑒於此，為便利日人學習中國話起見，乃有《活用上海語》之輯。其中關於日用之語言無不齊備。且於每句下注以歐文之音、日文之解釋，分門別類，使讀者可一目瞭然，無師自通，實為空前之巨著，其便利於人為何如。雖中國語言各處不同，然上海為各國通商大埠，商賈薈萃之區，則較之別處方言為重。可想而知，有志之士，盍手一編，方知余言不謬也。

2. 『活用上海語』のローマ字表記

『活用上海語』に収録される漢字は1480個、ローマ字表記の音節は225個ある。声調は付いていない。本論文は比較する為に、1900年 Davis D.H. と Silsby John Alfred により編纂された上海語の字典 *Shanghai Vernacular Chinese-English Dictionary*、又、それに基づいて錢乃榮(2014)が整理したIPA方式の表記¹⁾を参考した。『活用上海語』の発音について「凡例」は以下のように述べている：

發音附號ハ「——」及「^」ニシテ各ローマ字ノ頭ニ之ヲ附シ「——」ノ附號

¹⁾ *Shanghai Vernacular Chinese-English Dictionary* に収録された上海語の漢字は7779個であり、上海語の発音はローマ字表記で、声母と韻母は全て国際音声表記と対応でき、当時最もレベル高い上海語の字典と錢乃榮が評される。錢乃榮(2014)には、この字典におけるローマ字表記を国際音声表記に転換し、“1900年上海方言同音字表”(pp.43-65)を作成した。

ハ音ヲ引ク場合、「 $\overset{\sim}{\text{}}$ 」ノ附號ハ極メテ短ク促ル場合ヲ示ス。(中略)又「窓」即チ「Tsuong」²⁾ノ場合ハ「ツワン」ニ非ズシテ「ヲ」ノ音ハ極メテ短ク促音トナリ「ツン」ト云フ間ノ間一髮ニ極メテ短ク「ヲ」ノ音ヲ響カセ「ツワン」ト発スルヤウ「 $\overset{\sim}{\text{}}$ 」ノ印ヲ附シタル次第ナリ。(中略)又語尾「g」ノアルハ支那語ノ音例ニ依ツタモノニシテ発音セズ所謂サイレントナリ。例ヘバ「風」即チ「Fong」ノ場合「フワング」ニ非ズ「フワン」ナリトス。

『活用上海語』のローマ字表記は欧文の頭に補助符号が付く。「 — 」は長音を示し、「 $\overset{\sim}{\text{}}$ 」は緊密に発音する母音(単韻母か複合韻母)を表す。

『活用上海語』に長音符号を付けたローマ字表記は \bar{a} :fia 鞋也、 $\bar{c}h\bar{i}$:[tei] 鷄・[tsien] 剪、 $\bar{d}\bar{e}$:[de] 台、 $\bar{d}\bar{u}$:[dv] 頭、 $\bar{f}\bar{u}$:[hɔ̃n] 漢、 $\bar{g}\bar{e}$:[ɲæ̃n] 眼、 $\bar{h}\bar{o}$:[huo] 化、 $\bar{h}\bar{u}$:[hv] 蠟、 $\bar{j}\bar{i}$:[dzien] 鉗、 $\bar{j}\bar{u}$:[dzy] 颯、 $\bar{k}\bar{e}$:[ken] 榷・[k'e] 開、 $\bar{k}\bar{o}$:[kɔ̃] 高、 $\bar{m}\bar{o}$:[mo] 馬蔴・[mɔ̃] 毛、 $\bar{n}\bar{a}$:[na] 奶 椰、 $\bar{n}\bar{e}$:[ɲien] 鮫、 $\bar{n}\bar{o}$:[nɔ̃] 腦、 \bar{o} :[fɔ̃] 夏、 $\bar{r}\bar{e}$:[læ̃n] 爛、 $\bar{r}\bar{e}$:[læ̃n] 籃、 $\bar{r}\bar{o}$:[lɔ̃] 老、 $\bar{r}\bar{y}\bar{u}$:[lɔ̃] 屛、 $\bar{s}\bar{e}$:[sæ̃n] 山、 $\bar{s}\bar{u}$:[sɿ] 四・[sɔ̃n] 痠・[zɿ] 壽、 \bar{u} :[u] 烏・[fɿ] 胡、 \bar{w} :[fɿ] 壺など 33 字となる。上海語に長音・短音の区別はないが、実際の会話で、発音が長く引かれる場合がある。ネイティブとしてはこのような微妙な差に気をつけず、逆に大川興朔は日本人として、ネイティブが見落とし易い上海語の音声特徴を把握して、参照の価値を有する。

緊密に発音する母音を表す補助符号「 $\overset{\sim}{\text{}}$ 」を付けた表記は $ch\bar{u}$:[tey] 貴、 $f\bar{u}$:[fhuo] 華、 $i\bar{y}\bar{u}$:[fhy] 雨、 $j\bar{i}\bar{u}$:[dzix] 就、 $j\bar{y}\bar{u}$:[fɔ̃n] 眩、 $k\bar{u}$:[kuo] 瓜、 $k\bar{w}\bar{a}$:[k'ua] 快、 $k\bar{w}\bar{a}\bar{ŋ}$:[k'uʌŋ] 睏、 $k\bar{w}\bar{o}$:[kok] 國、 $k\bar{w}\bar{o}\bar{ŋ}$:[kuɔ̃] 光、 $n\bar{m}\bar{a}$:[m-ma] (姆媽)・[fɿm-me?] (無沒)、 $n\bar{i}\bar{e}$:[ɲiæ̃n] 廿、 $\bar{o}\bar{ŋ}$:[voŋ] 奉、 $p\bar{u}$:[po] 巴把、 $s\bar{e}$:[ze?] 十、 $s\bar{u}$:[so] 晒、 $ts\bar{u}\bar{a}$:[ts'e?] 撤拆出・[tse?] 隻浙汁折・[ts'ʌ?] 拆尺赤・[tsæ?] 紮・[tsak] 着、 $ts\bar{u}\bar{a}\bar{ŋ}$:[tsā] 張帳漲賬・[ts'ā] 廠・[ts'ʌŋ] 襯、 $ts\bar{u}\bar{e}$:[ts'e] 菜・[tse] 災者再患・[ts'en] 川喘・[tsen] 轉・[ts'æ̃n] 鏟・[tsɿ?] 節接脊瘡・[ts'ɔ̃] 翠、 $ts\bar{u}\bar{e}\bar{ŋ}$:[ts'ʌŋ] 椿春趁秤・[tsʌŋ] 枕震鎮政・[dzʌŋ] 乘、 $ts\bar{u}\bar{ŋ}$:[tsʌŋ] 正疹珍腫針真尊曾礎・[tsɔ̃] 忠、 $ts\bar{u}\bar{o}$:[tsɔ̃?] 作・[ts'ɔ̃] 草鈔糙炒操・[tsɔ̃] 朝早棗灶照・[ts'ɔ̃] 車釵差・[tso] 蔗・[ts'ok] 齷畜・[tsok] 燭粥竹・[tsɔ̃?] 桌足捉、 $ts\bar{u}\bar{o}\bar{ŋ}$:[ts'ɔ̃] 昌瘡唱娼窓窗蒼菖・[ts'ɔ̃] 裝粧莊章・[ts'ɔ̃] 葱囱・[tsɔ̃] 中鐘種總・[ts'ɔ̃] 蠶、 $ts\bar{u}\bar{w}\bar{o}\bar{ŋ}$:[ts'ɔ̃] 昌、 $z\bar{u}$:[dzo] 乍茶、 $ts\bar{u}\bar{a}$:[ts'a] 差など 117 字となる。補助符号「 $\overset{\sim}{\text{}}$ 」は一部の母音に付ける、付けてない例もたくさんある。例えば、[tsʌŋ] 正は $ts\bar{u}\bar{ŋ}$ と $tsung$ 二つの表記がある。

上海語は方言として、当用漢字がない用字が数多く存在し、『活用上海語』にもこのような当て字が現れている(「用例、ローマ字表記、日本語訳」の順)。

惠斯開 we-su-ke (ウエイスキー)、 \bar{y} 或 (獼) 猴 wa-seng (さる)、地轉 di-tsue (今度)、地槍 di-chang (此頃)、伊拉 i-ra (彼)、舜拉 ga-ra (彼等)、地頭 di-du (此處)、

²⁾ 原書にはローマ字 3 つ (uon) の頭に「 $\overset{\sim}{\text{}}$ 」の符号が付いたが、入力制限により、ローマ字 2 個の頭に付けることにしている。

伊頭 i-du (彼方)、伊面 i-mi (彼方)、地個 di-ko (此の)、阿里 a-ri (どの)、那能様子 na-nung-yang-tsu (怎那物)、格能様子 ka-nung-yang-tsu (この様な物)、交關 cho-kwe (大そう)、慢慢教/交 me-me-cho (悠り)、列拉 re-ra (居ります)、替儂一道去 ta-nong-i-do-chi (あなたと一緒にいきます)、撒惰 sa-du (しんどい)、推板 te-pe (相違)、常莊 zang-tsuong (常に)、火速³⁾ o-so (早速)、嚙裏嚙嘛 ru-ri-ru-su (多辯な)、慢慢呼呼⁴⁾ ma-ma-fu-fu (どうでもよい)、唸喇唸喇 wa-ra-wa-ra (やかましい)、卑⁵⁾酒 bi-chu (ビール)、晏⁶⁾一日 e-i-ni (一日延)。

誤字は本字の発音が分かるこそ把握できる。用例(「例、ローマ字表記、本字」の順)は、鴉片烟 a-pi-i (阿)、大解不通 du-ka-fu-tong (勿)、拉圾 ra-shi (垃)、杌子 ka-tsu (架)、門檻進 mong-ke-ching (精)、芥裏鷄 ka-ri-chi (咖喱)、不果 pa-ku (過)、槽坊司務 zo-fong-si-u (槽)、東洋豆辨醬 tong-yang-du-be-chang (瓣)、棟梁 tong-ryang (樑)、郎頭 rong-du (鄧)、象皮 jyang-bi (橡)、杉木 se-zu (樹)、下躺 o-tong (趟)、舍地方 sa-di-fong (啥)、美 me (蠻)、揚梅瘡 yang-me-tsuong (楊)、痴癩 chi-ti (癩)、了頭 o-du (下)、湯一湯 tong-i-tong (燙)、法條 fa-dyo (發)、撒屁 tsua-pi (拆) などとなる。

『活用上海語』における字音を Davis D.H. & Silsby John Alfred (1900) と比較すると、収録されてないのは搨 chyang (交ぜる)、油炸燴 yu-za-kwe (麵粉の油揚げ)、舢舨 se-pe (さんばん)、鷓鴣 tsuong-tyo (うづら)、稍微 so-we (稍稍)、女兒 nu-wn (女兒) の6例である。“稍微、女兒”は漢字が収録されているが、発音が収録されてない。錢乃榮 (2007: 296) は“稍为 so-fue”、錢乃榮 (2007: 171) は“囡儿 nō-fin”と表記した。間違って表記したのは胡桃 bu-do (fu)、股份 ku-bung (vΛŋ)、薔薇 zang-mi (ziā-vi)、包袱 po-o (vok)、三角個 so-ko-ko (sæn)、佛手 wa-su (veʔ)、是我 zeng-gu (zɿ)、鷺鳥 zu-tyo (dzien⁷⁾) の8例である。

『活用上海語』には、一漢字に複数で表記する用例は約100個あり、4種類に分けられる。Shanghai Vernacular Chinese-English Dictionary (1900) に、当時の上海語音声詳しく記録して、一漢字に複数の発音がある場合は、‘the classical pronunciation being first given and then the colloquial (following the letter c) when that differs from the

³⁾ 許寶華、陶寰 (1997: 168)、錢乃榮 (2007: 293) は、“豪梭”とする。

⁴⁾ 現代上海語は“馬馬虎虎”と書く。

⁵⁾ Shanghai Vernacular Chinese-English Dictionary (1900) に“啤”という字はない。同時代の上海語教材、例え『贏滬雙舌』(1914)にも“卑酒”と書く為、“啤”は当時まだ使用されていない可能性がある。

⁶⁾ Shanghai Vernacular Chinese-English Dictionary (1900) に“晏”の発音は“ien^o, c. an^o”、英語の解釈は“Evening, peaceful, clearsky.”。“晚”の発音は“^ovan, ^owan, c. ^oman, an^o”、英語の解釈は“Late, evening, behind.”。“晏”と“晚”は共通の発音“an^o”と共通の解釈“evening”を持ち、“晏”と“晚”は同じ意味である。

⁷⁾ 錢乃榮 (2014) “1900年上海方言同音字表”に、斜めの「n」は“咸山攝字”を示す。

classical.’(iv 頁) と述べた。つまり、classical pronunciation は「文読音」を指し、colloquial (following the letter *c*) は「白読音」をさす。例えば、日⁸⁾₁ 本 se-pong、日₂ 頭 ni-du / 大₁ 衣 da-i、大₂ 馬路 du-mo-ru / 女兒₁ nu-wn、兒₂ 子 ni-tsu / 木魚₁ mo-i、魚₂ 片湯 wn-pi-tong / 甲₁ 魚 cha-wn、指甲₂ chi-ka / 一萬_{1, 2} i-we(me) / 不二₁ 價 pa-r-cha、二₂ ni / 貴₁ 州 kwe-tsu、貴₂ 來西 chiu-re-shi などとなる。同じ意味で、異なる発音を持つのは炸₁ 蝦球 tsuo-huo-ju、油炸₂ 燴 yu-za-kwe などとなる。異なる品詞に関するのは碰着₁ bang-za、着₂ tsua / 上₁ 海 zong-he、樓上₂ ru-rong / 曾₁ 孫 tsung-seng、勿曾₂ fu-zung / 今朝₁ ching-tsuo、朝₂ 後 zo-u などとなる。古い発音・新しい発音に関するのは電₁ die⁹⁾、電₂ 車 di-tsuo などとなる。

3. 二十世紀初期の上海語音系

趙元任 (1928 : 82) は二十世紀初期の上海語を以下のように述べている :

有新舊派，新派分類近似蘇州，舊派近似浦東，(兩派人以“蘇州音”，“浦東音”互相指斥)，但許多人攙雜兩種。舊派來=雷≠蘭，新派雷≠來=蘭。舊派‘on’ (暖，南) 有的字讀é有的讀ö，新派一律作ö。舊派‘h (u), f’ 常混 (忽=拂)，‘w, v’ 常混 (王=房)，新派不大混。舊派分兩種 oq (各，谷)，新派不分。…… (按本書中所謂舊派恐怕已經是混合派，真正的舊派，大概還能辨全濁上去，‘b, d’ 兩母用真濁音，等等)。

錢乃榮 (2014 : 66) は 1853 年から 1992 年まで各時期に代表的な上海語著作の音系計 15 個を表に整理した。その中で、1900 年の音系は Davis D.H. と Silsby John Alfred の *Shanghai Vernacular Chinese-English Dictionary* に参照し、1920 年代の音系は 1923 年 R.A. Parker の “*Lesson In the Shanghai Dialect*” に、1928 年趙元任の《現代吳語的研究》が記録した新派音、旧派音にそれぞれ参照した。以下、錢乃榮 (2014 : 66) “各时期音系发展对照表” にある 1900 年と 1920 年代の上海語音系である。

声母 :

代表字 年	巴	批	婆	門	夫	附房	得	士	同	乃	拉	做精	出秋	蘇小
1900 年	p	p'	b	m	f	v 勿、v	t	t'	d	n	l	ts	ts'	s
1923 年	p	p'	b	m	f	v 勿、v	t	t'	d	n	l	ts	ts'	s
1928 年旧	p	p'	b	m	f	β f̃, v	t	t'	d	n	l	ts	s	ts'
1928 年新	p	p'	b	m	f	v	t	t'	d	n	l	ts	ts'	s

⁸⁾ 漢字の右下にある数字 1 は文読音で、2 は白読音である。

⁹⁾ 韻母 [ien] は 1883 年フランスの宣教師 (作者不詳) が上海の徐家匯土山灣で出版した *Exercices de Langue Chinoise Dialecte de Song-Kiang* (《松江方言練習課本》) の音系に、[ie] であった。

代表字 年	茶		坐		如	齊	記	巧	泥	語	休	古	空	共	我	海	鹹		胡	移	雨	哀		衣	烏	迂	
1900年	dz	z	te	te'	ŋ	ɛ	k	k'	g	ŋ	h	fi	j	w	0												
1923年	dz	z	te	te'	ŋ	ɛ	k	k'	g	ŋ	h	fi	j	w	y	0											
1928年旧	z		te	te'	ŋ	ɛ	k	k'	g	ŋ	h	fi, β	fi	(i u y)	0												
1928年新	z		te	te'	ŋ	ɛ	k	k'	g	ŋ	h	fi	fi	(i u y)	0												

韻母：

代表字 年	嘸	魚	而	子	主	理	路	雨	拜	邪	乖	壞	馬	瓜	下	好	橋	溝	求	靴	来	雷				
1900年	m	ŋ	r	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ
1923年	m	ŋ	r/l	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ
1928年旧	m	ŋ	ʔ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ
1928年新	m	ŋ	ʔ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ

代表字 年	且	規	灰	雖	看	半	款	歡	權	全	變	難	念	廿	慣	還	張	莊	兩	旺	橫	
1900年	iẽ, ia	we:	ø	õ	ẽ	wẽ	iõ	iẽ	ã	iã, iẽ	iã	wã	ã	õ	iã	iõ	wã	ã	õ	iã	iõ	wã
1923年	ia	we:	ø	õ	ẽ	uẽ	iõ	iẽ	ã	iẽ	uã	ã	õ	iã	iõ	wã	ã	õ	iã	iõ	wã	
1928年旧	ia, iE	ue e	ø	e	ue, e	^y ø	I	E	iE	ue, E	ã	õ	iã								uã	
1928年新	ia, i	ue e	ø		ue, uø	^y ø	I	E	iE	ue	ã	õ	iã								uã	

代表字 年	廣	荒	根	登	今	心	人	定	滾	魂	訓	算	共	兄	客	掐	磕	刻	渴
1900年	wõ	Λŋ	iΛŋ	iŋ	iΛŋ	iŋ	wΛŋ	yn	õ	oŋ	iõŋ	ak	æ?	e?	Λ?	ø?			
1923年	uõ	Λŋ	iΛŋ	iŋ	iΛŋ	iŋ	wΛŋ	yn	õ	oŋ	iõŋ	ak	æ?	e	Λ?	ø?			
1928年旧	uõ	õ	əŋ	iəŋ	iŋ	iəŋ	iŋ	uəŋ	əŋ	iõŋ	ø	oŋ	iõŋ	Λ?					ə?
1928年新	uõ	əŋ	iəŋ	iŋ	iəŋ	iŋ	uəŋ	ɤŋ	ø	oŋ	iõŋ	Λ?							ə?

代表字 年	脚	甲	逆	月	挖	划	活	哭	壳	局	浴	擴	筆	熱
1900年	ia?	iæ?	iΛ?	iø?	wa?	wak	we?	ok	ɔ?		io?	wɔ?	i?	ii?
1923年	iak	iΛ?	iø?	wæ?	wak	we?	ok	ɔ?		io?	uo?	i?	ii?	
1928年旧	ia?	iΛ?	Yø?		ua?	uə?	o?	ɔ?	Yø?	Yo?	uo?	i?	ie?	
1928年新	ia?	iΛ?	Yø?		ua?	uə?	o?	Yø?	Yo?	uo?	i?	ie?		

以上の音系変化によると、韻母の変化は声母より多く、基本的に1928年の旧派音から変化が起こっている。

4. 声母の対応

『活用上海語』における上海語声母のローマ字対応状況は以下で分析する。

1) 無聲音の有気音と無気音は区別なし。

ローマ字表記 p は無気音 [pa] (拜) / [pe] (貝) / [pu] (波) / [po] (巴) / [pɔ] (包) / [pi] (比) / [pio] (錶) / [pen] (搬) / [pæn] (板) / [pien] (扁) / [pā] (浜) / [pō] (膀) / [pʌŋ] (本) / [piŋ] (冰) / [pak] (百) / [pæʔ] (八) / [peʔ] (不) / [pok] (北) / [piʔ] (筆) と有気音 [p'e] (配) / [p'u] (浦) / [p'o] (怕) / [p'ɔ] (泡) / [p'i] (屁) / [p'io] (票) / [p'æn] (攀) / [p'ien] (騙) / [p'ɔ̃] (胖) / [p'ʌŋ] (噴) / [p'ɪŋ] (拼) / [p'ak] (拍) / [p'ɪʔ] (匹) などに対応する。

ローマ字表記 k は無気音 [ka] (家) / [ke] (蓋) / [kɔ] (高) / [ku] (哥) / [kʷ] (夠) / [kua] (乖) / [kue] (規) / [ken] (橄) / [kæn] (間) / [kuæn] (關) / [kuen] (管) / [kâ] (羹) / [kō] (江) / [kon] (工) / [kʌŋ] (根) / [kɔn] (肝) / [kak] (隔) / [kæʔ] (夾) / [keʔ] (鴿) / [kɔʔ] (割) / [kɔʔ] (角) / [kok] (國) / [kʌʔ] (個) / [kuæʔ] (括) / [kueʔ] (骨) と有気音 [k'a] (咖) / [k'e] (開) / [k'ɔ] (靠) / [k'u] (苦) / [k'ɻ] (口) / [k'ua] (快) / [k'ue] (塊) / [k'æn] (鉛) / [k'uæn] (筷) / [k'ä] (坑) / [k'on] (空) / [k'on] (看) / [k'ak] (客) / [k'æʔ] (甲) / [k'ʌʔ] (刻) / [k'eʔ] (咳) / [k'ɔʔ] (殼) / [k'ok] (哭) / [k'ueʔ] (濶) などに対応する。

ローマ字表記 t は無気音 [ta] (帶) / [te] (對) / [tɔ] (刀) / [tu] (多) / [tʷ] (斗) / [ti] (底) / [tio] (鈞) / [tæn] (單) / [tɔn] (短) / [tien] (店) / [tiŋ] (釘) / [ton] (冬) / [tō] (當) / [tā] (打) / [tʌŋ] (等) / [teʔ] (搭) / [tʌʔ] (德) / [tiʔ] (跌) と有気音 [t'a] (太) / [t'e] (推) / [t'ɔ] (套) / [t'u] (土) / [t'i] (體) / [t'io] (跳) / [t'æn] (灘) / [t'ien] (天) / [t'ɪŋ] (聽) / [t'on] (痛) / [t'ɔ̃] (燙) / [t'æʔ] (塔) / [t'eʔ] (脫) / [t'ɔʔ] (托) / [t'ɪʔ] (鉄) などに対応する。

ローマ字表記 ts は無気音 [tse] (災) / [tsɔ] (早) / [tso] (蔗) / [tsu] (做) / [tsʷ] (走) / [tsɻ] (芝) / [tsɥ] (豬) / [tsø] (錐) / [tsen] (轉) / [tsä] (張) / [tsō] (粧) / [tson] (中) / [tsʌŋ] (枕) / [tsæʔ] (紮) / [tsak] (着) / [tseʔ] (浙) / [tsok] (竹) / [tsɔʔ] (足) / [tsɪʔ] (接) と有気音 [ts'a] (差) / [ts'e] (菜) / [ts'ɔ] (草) / [ts'o] (車) / [ts'u] (醋) / [ts'ɻ] (臭) / [ts'ɻ] (吹) / [ts'u] (鼠) / [ts'ø] (翠) / [ts'en] (喘) / [ts'æn] (鏗) / [ts'ä] (廠) / [ts'ō] (窗) / [ts'ʌŋ] (春) / [ts'on] (葱) / [ts'ʌʔ] (尺) / [ts'eʔ] (出) / [ts'ok] (齷) などに対応する。

ローマ字表記 ch は“見系字” [tei] (基) / [teia] (駕) / [teio] (叫) / [teix] (九) / [tey] (鬼) / [teyn] (軍) / [teon] (絹) / [teien] (肩) / [teiä] (疆) / [teiaŋ] (今) / [teiaʔ] (甲) / [teiak] (腳) / [teio] (菊) / [teioʔ] (橘) / [teiʔ] (急) と [te'i] (去) / [te'io] (巧) / [te'iaŋ] (輕) / [te'ɪʔ] (吃) / [te'io] (曲) / [te'ioʔ] (缺)、“精組字” [tsi] (姉) / [tsia] (借) / [tsio] (蕉) / [tsix] (酒) / [tsɔn] (鑽) / [tsien] (煎) / [tsɪŋ] (精) / [tsiä] (將) / [tsɪʔ] (鯽) と [te'i] (且) / [ts'i] (妻) / [ts'y] (蛆) / [ts'ix] (秋) / [ts'ien] (千) / [ts'iä] (槍) / [ts'ɪŋ] (清) / [ts'ia] (雀) /

[ts'i?] (七)、章組字 [tsŋ] (指) などの三種に対応する。章組字が混雑するのは上海語 zh/ch/sh と z/c/s が区別しないことと関連性がある。錢乃榮 (2014: 66) の“各时期音系发展对照表”により、“精、秋”のような“精清兩母” tsi, ts'i の例字は1962年以降 tei, te'i に変化した¹⁰⁾。『活用上海語』は1924年に出版された為、“精清兩母”は tei, te'i になったとは言えない。

2) f と h が混雑する。①ヘボン式の「ふ」を fu と表記するに関連性があると考えられる。例えば fu[hʊ] (火)・[hɔŋ] (漢)・[hue?] (忽)、f̄u[hɔŋ] (漢)、f̄u[fiuɔ] (華)、fung[hʊɔŋ] (昏) などとなる。② f を h で表記する。例えば, ho[fok] (蝠)、hong[fɔŋ] (蜂) などとなる。これらの現象は趙元任 (1928: 82) が述べた“舊派‘h(u), f’常混”という現象と一致する。③ h を f にする例は fa[huae?] (豁)、fe[hue] (灰)・[huen] (歡)、fong[hʊɔ] (荒) などとなる。④ f と h がそれぞれ対応する例もある。例えば、fa[fæ?] (法)、fe[fæn] (翻)、fi[fi] (肺)、fo[fok] (福)、fong[fɔŋ] (風)・[fɔ] (方)、fu[fu] (夫)、fung[fɔŋ] (粉) と ha[hɔ?] (黑)・[hæ?] (瞎)・[ha] (蟹)、he[he] (海)・[hen] (喊)、ho[huo] (花)・[hɔ] (好)・[hɔ?] (霍)・[hu] (呼)、h̄o[huo] (化)、hong[hɔŋ] (烘)、h̄u[hɔ] (蠟)、huo[hɔŋ] (蝦) などとなる。

3) ローマ字 j, s, sh, z は上海語 [dz], [z], [dz] の表記に用いる。

	[dz]	[z]	[dz]/[z]	[dz]
j	jeng[dzɔŋ] 乘、 ji[dzi] 臍、 jing[dziŋ] 巡、	ji[zien] 前、ji[zi?] 拾、 jyang[ziã] 象	je[dze/ze] 裁儕、 ji[dzi?/zi?] 蓆、 jing[dziŋ/ziŋ] 靜、	jeng[dzɔŋ] 羣、 jeng[dziɔŋ] 擒、 jing[dziɔŋ] 琴、 jyang[dziã] 強、ji[dzi] 旗・[dzi?] 及、jyo[dziɔ] 橋・[dziok] 局、ju[dziɔ] 球、jyu[dziɔ] 舅、
s	seng[dzɔŋ] 城、 su[dzɔ] 隨	se[zien] 旋・[ze?] 日、 so[zo] 昨、su[zi] 是、 su[zi] 壽	-	sa[dzɔ] 虬
sh	-	shi[zien] 前	shi[dzi/zi] 齊	-
z	za[dze?] 姪・ [dzɔ?] 直・[dzak] 着、ze[dze] 財、 zuo[dzo] 茶、 zang[dzã] 長、 zong[dzɔŋ] 重、	za[za] 柴・[ze?] 舌・ [zɔ?] 食・[zæ?] 炸、 ze[zen] 然、zo[zɔ] 紹・ [zo] 蛇・[zok] 熟、zu[zi] 寺・[zu] 坐・[zu] 樹、 zeng[zɔŋ] 唇、zong[zɔ] 上、zung[zɔŋ] 晨	za[dzak/zak] 宅、 ze[dze/ze] 裁、 zung[dzɔŋ/zɔŋ] 曾	zing[dziɔŋ] 芹

¹⁰⁾ 錢乃榮 (2014: 66) の“各时期音系发展对照表”における1962年の音系は許寶華、湯珍珠《上海方音的内部差異》(1962)を参考した。

声母 [dz]・[z] は主に“精組字”に属し、“[dzi] 臍、[dziŋ] 巡、[zien] 前、[ziã] 象、[zien] 旋、[zo] 昨、[zi] 寺、[dzø] 隨、[zu] 坐”などとなる。“[dze/ze] 儕、[dzΛŋ] 乘、[ziʔ] 拾、[dzΛŋ] 城、[zeʔ] 日、[zi] 是、[dzeʔ] 姪、[dzΛʔ] 直、[dzak] 着、[dzo] 茶、[dzã] 長、[dzon] 重、[za] 柴、[zeʔ] 舌、[zΛʔ] 食、[zæʔ] 炸、[zen] 然、[zo] 紹、[zo] 蛇、[zok] 熟、[zu] 樹、[zΛŋ] 唇、[zΛŋ] 晨”は“知章組字”に属する。声母 [dz] は“見系字”に属し、“[dzyn] 羣、[dziΛŋ] 擒、[dziΛŋ] 琴、[dziã] 強、[dzi] 旗、[dziʔ] 及、[dzio] 橋、[dziok] 局、[dzix] 球、[dzix] 舅”となる。*Shanghai Vernacular Chinese-English Dictionary* (1900) に [dz]・[z] は dz か z か、又 dz と z 両方と書いて、[dz] は j と表記している。

4) ローマ字 r は上海語の l を対応する。例えば、ra[la] (拉)・[læʔ] (辣)、rang[lã] (冷)・[lΛŋ] (輪)、rē[læŋ] (爛)、rē[læŋ] (籃)、re[le] (來)・[læŋ] (籃)、rei[le] (雷)・[læŋ] (蘭)、ri[li] (裡)・[liʔ] (栗)・[lien] (蓮)・[ly] (旅)、ring[lŋ] (林)、rō[lo] (老)、ro[lo] (癆)・[lu] (羅)・[loʔ] (落)・[lok] (六)、rong[lō] (狼)・[lΛŋ] (論)・[lon] (龍)、ru[lu] (路)・[ly] (樓)、ryang[liã] (亮)、ryo[lio] (料)、ryu[lis] (留)、ryu[lø] (屛) などとなる。

5) 有気破裂音 b、d、g が同じようにきちんと表記する場合が多い。

b は [bak] (白) / [bæʔ] 拔 / [ba] (敗) / [beʔ] (鉞) / [bã] (朋) / [bō] (蚌) / [bæŋ] (辦) / [be] (陪) / [biʔ] (別) / [ben] (盤) / [bi] (皮) / [biʔ] (別) / [bien] (便) / [biŋ] (病) / [bo] (跑) / [bo] (杷) / [bok] (薄) / [boŋ] (蓬) / [bō] (棒) / [bu] (婆) / [bΛŋ] (盆) などを対応する。

d は [da] (大) / [dΛʔ] (特) / [dæʔ] (踏) / [de] (台) / [dæŋ] (蛋) / [diʔ] (蝶) / [di] (弟) / [dien] (甜) / [diʔ] (地) / [dō] (桃) / [dok] (讀) / [diŋ] (停) / [dō] (糖) / [don] (童) / [dΛŋ] (藤) / [du] (肚) / [døn] (斷) / [dɔ] (頭) / [dio] (調) などを対応する。

g は軟口蓋音 g と ŋ に対応する。例えば、[ŋa] (牙) / [ŋak] (額) / [ŋã] (硬) / [ŋe] (呆) / [ŋæŋ] (眼) / [ŋu] (我) / [ŋɔ] (藕) と [ga] (茄) / [geʔ] (筍) / [guæŋ] (環) などを対応する。

ただし、無声音 p、t、k と有声音 b、d、g が混雑する場合も若干ある。例えば、bang[pō] (榜)、bi[pʔiʔ] (劈)、bu[peʔ] (勿)、de[tæŋ] (丹)、du[tu] (朶)、ga[ka] 机と pa [ba] (排)、pi[bi] (皮)、po[bok] (駁) など、これらは間違った表記となる。

6) ゼロ声母、m、n、s、sh の対応が一致する。

ゼロ声母は a[a] (矮) / ang[ã] (櫻) / i[i] (醫) / o[o] (鴉) / ong[on] (翁) / u[u] (烏) などとなる。

ローマ字 m は [ma] (媽) / [mak] (麥) / [mΛʔ] (墨) / [meʔ] (末) / [mæʔ] (襪) / [me] (美) / [mæŋ] (慢) / [men] (饅) / [mi] (米) / [mien] (麵) / [miʔ] (蜜) / [miŋ] (明) / [mo] (馬) / [mō] (毛) / [mɔ] (牡) / [mok] (木) / [meʔ] (物) / [mō] (忙) / [mΛŋ] (問) / [mio] (廟) などを対応する。

ローマ字 n は na、ne、nu、no の場合は歯茎音 n と対応する。例えば [na] (挪) / [nen] (拿) / [næŋ] (難) / [nō] (腦) / [nu] (糯) / [nøn] (罔) / [nΛŋ] (能) / [non] (儂) などとなる。

ローマ字の ni, nya, nyu, nyo は硬口蓋前音 η と対応する。例えば $\eta[\eta i \text{æ}n]$ (念) / $[\eta i \text{e}n]$ (鯰) / $[\eta i]$ (二) / $[\eta y]$ (女) / $[\eta i x]$ (牛) / $[\eta i \text{ɔ}]$ (鏡) / $[\eta i \text{e}n]$ (年) / $\eta i \text{æ}n$ (廿) / $[\eta i \text{ɔ}n]$ (軟) / $[\eta i \text{ä}]$ (娘) / $[\eta i \text{a}n]$ (人) / $[\eta i \text{ɔ}n]$ (絨) / $\eta i?$ (熱) / $\eta i \text{æ}?$ (擱) / $\eta i \text{ɔ}k$ (肉) / $\eta i \text{ɔ}?$ (月) などとなる。

ローマ字 s は $[\text{s}a]$ (啥) / $[\text{s}e]$ (碎) / $[\text{s}o]$ (沙) / $[\text{s}ɔ]$ (燒) / $[\text{s}u]$ (蘇) / $[\text{s}x]$ (手) / $[\text{s}i]$ (水) / $[\text{s}u]$ (書) / $[\text{s}ø]$ (歲) / $[\text{s}ɔn]$ (蒜) / $[\text{s}e\text{ɲ}]$ (扇) / $[\text{s}æ\text{ɲ}]$ (傘) / $[\text{s}ä]$ (生) / $[\text{s}ɔ]$ (雙) / $[\text{s}ɔn]$ (松) / $[\text{s}a\text{ɲ}]$ (孫) / $[\text{s}e?$ (說) / $[\text{s}æ?$ (殺) / $[\text{s}ok]$ (叔) / $[\text{s}i?$ (息)¹¹⁾ などと対応する。[s] 以外に対応する用例は $\text{sa}[\text{d}z\text{x}]$ (虻) / $\text{seng}[\text{d}z\text{a}n]$ (城) / $\text{song}[\text{d}z\text{ɔ}n]$ (重) / $\text{su}[\text{d}z\text{ø}]$ (隨) / $\text{se}[\text{z}i \text{e}n]$ (旋) / $\text{se}[\text{z}e?$ (日) / $\text{so}[\text{z}o]$ (昨) / $\text{su}[\text{z}i]$ (是自) / $\overline{\text{su}}[\text{z}x]$ (壽) となり、その中に $[\text{z}i \text{e}n]$ (旋) は“精組字”に属する。

ローマ字 sh は“精組字”の $[\text{s}i \text{a}]$ (瀉) / $[\text{s}i \text{ä}]$ (想) / $[\text{s}i]$ (細) / $[\text{s}i \text{e}n]$ (先) / $[\text{s}i \text{ɲ}]$ (心) / $[\text{s}i \text{ɔ}]$ (笑) / $[\text{s}i?$ (雪) / $[\text{s}i \text{a}?$ (惜) / $[\text{t}s \text{ɪ} \text{ɲ}]$ (蜻) / $[\text{e}i \text{ä}]$ (香) / $[\text{e}i \text{e}n]$ (顯) / $[\text{e}i?$ (歇) / $[\text{z}i / \text{d}z i]$ (齊) / $[\text{z}i \text{e}n]$ (前) と“見系字”の $[\text{e}i]$ (喜) / $[\text{e}i \text{a}n]$ (興) / $[\text{e}i \text{ɔ}]$ (曉) / $[\text{t}e \text{ɪ} \text{e}n]$ (欠) / $[\text{e}i \text{ɔ}n]$ (兄) / $[\text{e}y]$ (許) / $[\text{e}i \text{ɔ}?$ (血) と“知章組字”の $[\text{s}a \text{ɲ}]$ (嬾) に対応する。発音的に sh が [ɕ] に一番近似すると考えられる。

7) ローマ字 w, y は声門音 h とゼロ声母に対応する。

ローマ字 w は①声門音 h に対応する場合は、 $[\text{f}u]$ (壺) / $[\text{f}i \text{x}]$ (厚) / $[\text{f}i \text{u} \text{a}]$ (壞) / $[\text{f}i \text{u} \text{e}]$ (微) / $[\text{f}i \text{u} \text{e}n]$ (碗) / $[\text{f}i \text{u} \text{æ}n]$ (灣) / $[\text{f}i \text{ɔ}n]$ (寒) / $[\text{f}i \text{u} \text{ä}]$ (橫) / $[\text{f}i \text{u} \text{ɔ}]$ (王) / $\text{w}n[\text{f}i \text{ɲ}]$ (魚) / $[\text{f}i \text{u} \text{æ}?$ (滑) / $[\text{f}i \text{u} \text{e}?$ (活) / $[\text{f}i \text{ɔ}k]$ (鑊) などとなる。②ゼロ声母に対応する場合は、 $[\text{u} \text{e}]$ (回) / $\text{u} \text{æ}n$ (還) などとなり、殆ど u 介音を伴う音節である。

ローマ字 y は①声門音 h に対応する場合は、 $[\text{f}i \text{a}]$ (爺) / $[\text{f}i \text{ɔ}]$ (鷄) / $[\text{f}i \text{y}]$ (有) / $[\text{f}i \text{y}]$ (芋) / $[\text{f}i \text{y} \text{ɔ}n]$ (圓) / $[\text{f}i \text{ä}]$ (陽) / $[\text{f}i \text{y} \text{ɲ}]$ (雲) / $[\text{f}i \text{a} \text{ɲ}]$ (營) / $[\text{f}i \text{ɔ} \text{ɲ}]$ (用) / $[\text{f}i \text{a} \text{k}]$ (藥) / $[\text{f}i \text{a} \text{?}]$ (易) / $[\text{f}i \text{ɔ} \text{k}]$ (浴) などとなる。②ゼロ声母に対応する場合は、 $[\text{i} \text{a}]$ (呀) / $[\text{i} \text{ɔ}]$ (要) / $[\text{i} \text{ɔ}n]$ (鴛) / $[\text{i} \text{a} \text{k}]$ (約) などとな、殆ど i 介音を伴う音節である。

『活用上海語』に収録された声門音 h のローマ字表記はゼロ声母の場合もある。用例は $\text{a}[\text{f}a]$ (鞋)・ $[\text{f}æ?$ (狹)、 $\bar{\text{a}}[\text{f}a]$ (鞋)、 $\text{ang}[\text{f}ä]$ (杏)、 $\text{e}[\text{f}e]$ (頰)・ $[\text{f}æ\text{ɲ}]$ (鹹)・ $[\text{f}e\text{ɲ}]$ (含)、 $\text{i}[\text{f}i \text{e}n]$ (現)・ $[\text{f}i]$ (夷)・ $[\text{f}i?$ (葉)・ $[\text{f}i \text{y}]$ (魚)、 $\text{ing}[\text{f}i \text{a} \text{ɲ}]$ (引)・ $[\text{f}i \text{y} \text{ɲ}]$ (髮)、 $\text{i} \text{y} \widehat{\text{u}}$ (雨)、 $\text{o}[\text{f}ɔ]$ (號)・ $[\text{f}u \text{o}]$ (話)・ $[\text{f}ɔ?$ (學)、 $\text{ong}[\text{f}ɔ]$ (杭)・ $[\text{f}ɔ \text{ɲ}]$ (虹)・ $[\text{f}i \text{u} \text{a} \text{ɲ}]$ (溫)、 $\text{r}[\text{f}i]$ (二)、 $\bar{\text{u}}[\text{f}u]$ (胡)、 $\text{u}[\text{f}i \text{x}]$ (後)・ $[\text{f}u]$ (霧) などとなる。

8) ローマ字 v は $\text{v} \text{ang}$ ・ $\text{v} \text{ong}[\text{v} \text{a} \text{ɲ}]$ (文) のみに対応する。『活用上海語』に収録された声母 v のローマ字表記は 16 例があり、他の 15 例はゼロ声母 $\text{o}[\text{v} \text{ɔ}k]$ (祇) / $\text{ong}[\text{v} \text{ɔ} \text{ɲ}]$ (奉縫鳳) / $\widehat{\text{ong}}[\text{v} \text{ɔ} \text{ɲ}]$ (奉) / $\text{u}[\text{v} \text{u}]$ (婦務腐) がある。別のローマ字用例は $\text{bung}[\text{v} \text{a} \text{ɲ}]$ (份) / $\text{fu}[\text{v} \text{x}]$ (罘) / $\text{mi}[\text{v} i]$ (薇) / $\text{wa}[\text{v} a]$ (否)・ $[\text{v} e?$ (佛) / $\text{wi}[\text{v} i]$ (微) / $\text{wong}[\text{v} \text{ɔ}]$ (房) / $\text{wu}[\text{v} u]$

¹¹⁾ $[\text{s}i?$ (息) は“精組字”に属する。

(英)となる。bung[vʌŋ] (份)は“股份”で、これは日本語の新語¹²⁾のため、日本語の発音をそのまま導入した可能性もある。w・fとvの発音部位が近い為、vの代わりにw・fで表記している。

5. 韻母の対応

『活用上海語』における上海語韻母のローマ字対応状況は以下で分析する。

1) 入声韻尾は表記しない。『活用上海語』に収録された入声字は247個存在するが、ローマ字で表記されていない。当時に上海語の入声韻尾は[ʔ]と[k]2つがあり、主要母音と組み合わせると、[æʔ]・[ʌʔ]・[ak]・[eʔ]・[ɔʔ]・[ok]・[iʔ]・[øʔ]の8つとなる。『活用上海語』に母音と入声韻音節の対応状況は以下である。

[æʔ]・[ʌʔ]は半広母音、[ak]は広母音で、発音は近いので、『活用上海語』に基本的にローマ字aで表記する。例えば、a[æʔ] (阿鴨押鴉) / ba[bæʔ] (拔) / da[dæʔ] (踏) / fa[fæʔ] (法髮發) / ha[hæʔ] (瞎) / ; a[ʌʔ] (呃) / da[dʌʔ] (特) / ha[hʌʔ] (黑) ; ba[bak] (白) / ka[kak] (隔格) / ka[kʰak] (客) などとなる。

[eʔ]の母音[e]はより発音が短く、聴感的に[a]か[e]かどちらかにも似ているため、ローマ字eとaの両方で表記する。aの場合はba[beʔ] (鉞) / ga[geʔ] (筈) / ka[keʔ] (鴿) / ka[kʰeʔ] (咳) / pa[peʔ] (不撥) / ta[tʰeʔ] (脫)。eの場合はke[kʰeʔ] (磕) / pe[peʔ] (不) / se[zeʔ] (十) / se[seʔ] (說) / se[zeʔ] (十日) などとなる。また、ローマ字oで表記する例はko[kueʔ] (骨)とmo[meʔ] (物)の2つがあり、ko[kueʔ] (骨)の介音uは表記していない。そして、ローマ字uで表記する例はbu[peʔ] (勿丕)の1つとなる。

[ɔʔ]・[ok]は半狭母音で、基本的にローマ字oで表記する。例えば、o[ɔʔ] (𪔐) / ko[kɔʔ] (角各攔) / ko[kʰɔʔ] (殼) ; bo[bok] (蔔薄) / dok[dok] (獨讀) / fo[fok] (福腹) / mo[mok] (牧木沐目) / po[pok] (北膊) / jyo[dziok] (局) / yo[fiok] (育浴) などとなる。u、wa、woで表記する例tu[tʰɔʔ] (托) / wa[fiok] (或) / kwa[kok] (國) / wo[fiok] (鑊) / kwo[kok] (國)もある。声母chと組み合わせる場合は、介音iが記入されない、ローマ字表記はchoである。例えば、cho[teʰiok] (曲) / [teiok] (菊)である。

[iʔ]・[iʌʔ]はローマ字iで表記する。例えば、chi[teʰiʔ] (結急) / chi[tsʰiʔ] (七漆) / chi[tsiʔ] (鯽) / di[diʔ] (地) / i[iʔ] (一壹噎) / mi[miʔ] (蜜) / ni[niʔ] (熱日)などとshi[siaʔ] (惜)である。

[øʔ]・[iøʔ]の例はka[køʔ] (割)の1つとcho[teʰiøʔ] (橘) / cho[teʰiøʔ] (缺) / nyo[njøʔ] (月) / shu[eiøʔ] (血)の4つである。oと[øʔ]はともに半狭円唇母音であり、対応は良い。錢乃榮(2014)により、二十世紀20年代に、[øʔ]は[eʔ]に変化したため、kaで[køʔ]に対応することは、以上のaで[eʔ]を対応することと一致する。

¹²⁾ 『広辞苑(第二版)』(1969: 827): 「こぶん【股份】、中国で、株式のこと。股分。」と解釈する。

2) 陽声韻とローマ字表記の対応は5種類ある。

① “咸山撮字”は母音で表記する。用例は be[bæn] (辦)・ben] (盤)、de[dæn] (蛋)、di[dien] (田)、du[døn] (斷) などとなる。

錢乃榮(2014:83)により、“在1923年以后出版的西方传教士的著作和赵元任1928年《现代吴语的研究》中所记的上海话,咸山撮字已经全无鼻音”。これらの字は二十世紀20年代から、非鼻音化即ち [æŋ] は [ɛ] に、[en] は [e] に、[ien] は [i] に、[øŋ] は [ø] になる。『活用上海語』は1924年に初版されたので、“咸山撮”字を母音として表記しても、音声の対応が正しいと考えられる。ただ [ø] は日本語にない発音の為、u で表記している。

②ローマ字 ng は [ŋ] に対応する。用例は bing[bɪŋ] (病)、ding[dɪŋ] (蜓)、ming[mɪŋ] (命)、bong[bɔŋ] (蓬)、dong[dɔŋ] (銅)、nong[nɔŋ] (儂)、ing[iɔŋ] (陰)、ning[niɔŋ] (認)、pang[pʰɔŋ] 噴、bung[bɔŋ] (盆)、nung[nɔŋ] (能)、mong[mɔŋ] 門、jeng[dzɔŋ] (乘)、kwang[kʰuɔŋ] (梱) などとなる。ng は日本語のない音節であり、[ŋ] に対応するために設けたことが分かる。

③ローマ字 ng は鼻化音 [ã]、[õ] に対応する。[ã] に対応する用例は bang[bã] (朋)、gang[ŋã] (硬)、kang[kʰã] (坑)、pang[pã] (浜)、rang[lã] (冷) などとなる。[õ] に対応する用例は bong[bõ] (棒)、dong[dõ] (糖)、fong[fõ] (放)、mong[mõ] (望)、ong[hõ] 杭、rong[lõ] (浪)、kwong[kuõ] (廣) などとなる。大川氏は上海語の鼻化母音韻母にあまり意識していないようである。

④ローマ字 ng は [ŋ] に対応する。用例は ching[teyn] 軍、ing[ɸyn] 熨、jeng[dzyn] 羣、ying[ɸyn] 雲の4つとなる。

⑤ローマ字 n は [ŋ] に対応する。用例は jen[zɔŋ] 辰の1つとなる。

3) 陰声韻とローマ字表記の対応は以下である。

①ローマ字 a は [a] に対応する。用例は [a] 矮、[ba] 牌、[da] 大、[ga] 茄、[pa] 拜 などとなる。

②ローマ字 e は [e] に対応する。用例は [ŋe] 呆、[he] 海、[kʰe] 開、[me] 每、[pe] 背 などとなる。

ローマ字 ei は [e] に対応する。用例は [le] 雷の1つとなる。

③ローマ字 i は [i] に対応する。用例は [i] 衣、[bi] 脾、[di] 蹄、[fi] 肺、[mi] 味、[li] 禮 などとなる。

ローマ字 yo は [io] に対応する。用例は [dio] 條、[dzio] 橋、[mio] 廟、[pio] 錶、[pʰio] 票 などとなる。

ローマ字 yu は [ø]、[ix] に対応する。[ø] の用例は [lø] 屛 (卵) の1つとなる。[ix] の用例は [dzix] 舊、[ŋix] 鈕、[lix] 流 などとなる。[ø]、[ɻ] は半狭母音で、日本語にない発音であり、一番近いのは狭母音 yu[ju] であると考えられる。

④ローマ字 u は [u]、[ɿ] に対応する。[u] の用例は [ɲu] 我、[bu] 葡、[du] 肚、[fu] 傅などとなる。[ɿ] の用例は [ɲɿ] 藕、[kɿ] 溝、[lɿ] 樓などとなる。

ローマ字 uo は [uo]、[o] に対応する。[uo] の用例は [kuo] 瓜、[fuo] 華などとなる。[o] の用例は [po] 把、[dzo] 茶などとなる。ローマ字 wo は [uo] に対応する。用例は [kuo] 褂などとなる。

⑤ローマ字 o は [o]、[ɔ] に対応する。[o] の用例は [bo] 杷、[mo] 馬、[p'o] 怕などとなる。[ɔ] の用例は [bo] 雹、[ko] 告、[no] 腦などとなる。ローマ字 ho は、[huo] 花などに対応する場合がある。

ローマ字 ou は [oŋ] に対応する。用例は [hōŋ] 蝦の 1 つとなる。

6. 音節の対応

日本語の音節は上海語と比較すれば、数が少ない為、一つのローマ字表記が複数の上海語の音声に対応するのは特徴である。例えば、ローマ字表記 cho が [tɕio] 教交叫 / [tɕ'io] 巧 / [tsio] 蕉椒 / [tɕ'io] 曲 / [tɕio] 菊 / [tɕio?] 橘 / [tɕ'io?] 缺 / [tɕ'io?] 吃の 8 つの上海語音節を表す。なお、一対一の例もある。例えば、[fi] 肺啡翡はローマ字表記 fi で表す。

ローマ字表記が上海語の音節とよりびったり対応するのが a:[a] 矮阿、ang:[ā] 櫻、ba:[ba] 敗牌罷、bang:[bā] 朋棚碰、be:[be] 陪、bi:[bi] 皮脾卑^(啤) 枇琵琶、bing:[biŋ] 病癩屏瓶、bo:[bo] 芭杷、bong:[boŋ] 蓬、bu:[bu] 葡婆捕簿蒲部、da:[da] 大、de:[de] 台臺枱檯代兌、de:[de] 台、di:[di] 地弟蹄隸、ding:[diŋ] 蜓錠定停、dong:[doŋ] 童銅桶筒桐動、dyo:[diɔ] 調條、fi:[fi] 肺啡翡、fong:[foŋ] 風封、ga:[ga] 茄、ha:[ha] 蟹、he:[he] 海、hong:[hoŋ] 烘、i:[i] 醫衣意椅、jyo:[dziɔ] 橘、ka:[k'a] 揩咖快、kang:[k'ā] 坑、ke:[k'e] 開、kong:[k'oŋ] 孔空恐、kuo:[kuo] 瓜、kwo:[kuo] 褂、ma:[ma] 媽買賣^{2(媽)}、me:[me] 美妹妹煤煤每 / [mæŋ] 美^(嬰) 慢萬 / [mɛŋ] 滿饅饅、mi:[mi] 米迷味眉 / [mien] 綿綿面麵、myo:[mio] 廟、na:[na] 芳奶那^(哪)、na:[na] 奶娜、ne:[nen] 南拿 / [niæn] 念^(廿) / [næn] 難、nē:[niɛŋ] 鯰、ni:[ni] 耳泥二兒尼蟻呢泥宜 / [niɛŋ] 年染硯、ni:[niæn] 廿、no:[no] 腦、nong:[noŋ] 儂、nu:[nu] 糯、nyang:[niā] 娘讓、nyong:[niɔŋ] 絨、nyo:[niɔ] 饒、o:[o] 鴉、ong:[oŋ] 翁、pe:[p'æŋ] 攀 / [p'e] 胚配、pi:[p'i] 屁譬披批 / [p'ien] 片騙、ping:[p'iŋ] 拼、pu:[p'u] 浦、pyo:[p'io] 票、sa:[sa] 撒啥、sang:[sā] 生笙、sē:[sæn] 山、se:[se] 舢碎 / [sen] 扇 / [sæn] 三山衫傘、song:[soŋ] 宋送淞松、su:[su] 蘇嚙^(嗽) 數鎖溯、shang:[eiā] 鄉香向響、shi:[ei] 喜戲稀、sho:[eiɔ] 曉、shong:[eiɔŋ] 胸兇兇、ta:[t'a] 太、tang:[tā] 打、te:[t'æŋ] 灘灘毯炭 / [t'e] 推退、ti:[t'i] 體嚏梯剃歷 / [t'ien] 天、ting:[t'iŋ] 聽廳、to:[t'o] 套討、tong:[t'oŋ] 通痛統、tsua:[ts'a] 差、tsuang:[ts'ā] 廠、tsue:[ts'e] 菜 / [ts'en] 川喘 / [ts'æŋ] 鏟、tyo:[t'io] 跳、ū:[u] 烏、u:[u] 污、we:[ue] 回匯胃惠圍為媧 / [uen] 換完 / [uæn] 還 / ya:[ia] 呀、yo:[io] 要、za:[dza] 柴 / [za] 豺、zang:[dzā] 場場長丈常、ze:[dze] 財裁在儕 / [zen] 船蠶鱗然 / [dzæŋ]

站棧賺など(237字、82音節)であり、全音節の36%となり、約三分の一に占める。

7. ローマ字表記の音声性質

本論文は『活用上海語』におけるローマ字表記の音声研究に通じ、編纂者大川與朔のローマ字表記の特徴、又は二十世紀20年代の上海語の音声状況を究明した。

『活用上海語』の前に出版された日本人向けの上海語学習書¹³⁾は基本的に仮名注音を使用した。大川與朔は始めてローマ字表記を使って、更に補助符号や日本語より豊富なローマ字表記を新創し、上海語音声の対応性をかなり高めた。

音声の対応について、日本語にない声調と入声韻尾に表記がないことは残念だが、他の上海語音声の特徴は大川與朔がきちんと注意しながら表記した。特に重要な点は中古時代“見系字”と“精組字”の細音類対応にある。

1) 『活用上海語』の“見系字”細音類(硬口蓋前音 [te]・[teʰ]・[e]・[dz])と対応するのはローマ字 ch, sh, j (後部歯茎音 [tʃ], [ʃ], [dʒ])である。これらの字の声母 [k]・[kʰ]・[x]・[g] は後ろの狭母音 [i, y] の影響を受け、口蓋化が生じ、硬口蓋前音 [te]・[teʰ]・[e]・[dz] に変化したため、発音部位で見れば、日本語の後部歯茎音と中国語の硬口蓋前音は近く、対応が良いと考えられる。

2) 『活用上海語』に“精組字”(歯茎音 [ts]・[tsʰ]・[s]・[z]・[dz])と対応するのはローマ字 ch, sh, s, z, j であり、それらの用例は三種類に分けられる。一つは錢乃榮(2014)“各时期音系发展对照表”のように二十世紀60年代から、漸く硬口蓋前音 [te]・[teʰ]・[e]・[dz] に合併したもので、[tsi] (姉) / [tsia] (姐借) / [tsiã] (醬漿將擲) / [tsien] (剪煎籤箴) / [tsiŋ] (進精晶津井晴) / [tsio] (蕉椒) / [tsix] (酒) / [tsiʔ] (鯽) と [tsʰi] (妻) / [tsʰy] (蛆) / [tsʰiã] (槍槍) / [tsʰien] (千纏) / [tsʰiŋ] (青清親請蜻) / [tsʰix] (秋鞦韆) / [tsʰiak] (雀鵲) / [tsʰiʔ] (七漆) と [ziɛn] (前旋) / [ziŋ] (靜淨尋) / [ziã] (象橡像匠蓄) / [ziʔ] (蓆) / [dzi] (臍齊) / [dzien] (錢) / [dzix] (就鷺) / [dziŋ] (巡情) / [dziʔ] (疾) と [si] (西細洗死圾壻) / [sia] (瀉寫) / [sio] (小簫笑銷) / [siã] (相箱想) / [sien] (先仙線) / [siʔ] (息雪錫鱧) の80例となる。もう一つは硬口蓋前音 [te]・[teʰ]・[e] と発音するもので、[teʰi] (且) の1例となる。もう一つは今まで相変わらず歯茎音 [ts]・[tsʰ]・[s]・[z]・[dz] と発音するもので、[tsi] (左) / [tso] (糟) / [tson] (鑽) / [tsɔ] (臟) と [zi] (寺自字) / [zu] (坐座) / [ze] (裁) / [zo] (造皂) / [zen] (蠶) / [zɛŋ] (曾) / [zoʔ] (鑿) / [zeʔ] (賊雜) と [dzɿ] (磁) / [dze] (財裁在) / [dzon] (從) の22例となる。

以上の統計によって、『活用上海語』は二十世紀20年代に出版されたため、前述第一類字は当時“精組字”の音声変化はまだ発生していなかったと分かる。これらの字

¹³⁾ 『活用上海語』(1924)の前に出版された日本人向けの上海語学習書は御幡雅文『滬語便商』(1892)、『滬語津梁』(1900)や杉江房造『上海語独案内』(1904)、林通世『贏滬雙舌』(1914)などがある。

は「精組細音字」類に属し、現代上海語では「見系細音字」が口蓋化した後、同様に口蓋化が発生し、「尖団不分」になったが、『活用上海語』時代にはまだ起きていないと証明された。“精組細音字”の「且」は一例口蓋化対応したが例外となる。『活用上海語』における [tsi] (左) / [tsɔ] (糟) / [tson] (鑽) / [tsɔ̃] (臟) など 22 例は「精組洪音字」類であり、声母の発音は変化なしと分かる。

錢乃榮 (2014) が整理した“各时期音系发展对照表”により、二十世紀初期の上海語音系は変化期にある。『活用上海語』のローマ字表記に通して、それらの変化も幾つかが見える。

① 趙元任 (1928 : 82) が述べた“舊派 ‘h(u), f’ 常混”という現象は『活用上海語』にも見える。

ローマ字 j, z, s, sh と [dz], [z], [dz] の対応。錢乃榮 (2014 : 78) は [dz], [z] について“上海方言の声母中原来也有 dz 辅音, 在 19 世纪中叶到后叶渐渐向 z 声母合并, 到 20 世纪前叶大致完成归并。”と述べている。つまり、『活用上海語』が出版した時に、[dz] はもう [z] に合併し、[dz], [z] をローマ字 z で表記するのは正しいと考える。そして、*Shanghai Vernacular Chinese-English Dictionary* (1900) には j で [dz] を表記に対して、『活用上海語』にも同じように殆ど [dz] をローマ字 j で表記し、対応性が良いと考える。また、ローマ字 s, sh で表記するのは [dzɿ] (虻)、[ziɛn] (旋)、[zeʔ] (日)、[zɔŋ] (城)、[zo] (昨)、[zi] (是自)、[zø] (隨)、[zɿ] (壽)、[zi/dzi] (齊)、[ziɛn] (前) となる。これらの発音は、ネイティブとしてもきちんと無気音で発声するのは難しいため、気流を少し流すのは発音に楽だと考え、編纂者の工夫が見える。

② 母音表記と“中古咸山攝字”の対応。二十世紀 20 年代から、“中古咸山攝字”は全て母音化したので、『活用上海語』に普通の母音 e, i, u など で表記するのは当時の音声変化を反映している。

『活用上海語』は二十世紀 20 年代で出版され、ちょうど上海語の音声が大いに变化する時代に重なる。当時の上海語音声はどのような状況であるのか、この本は非常に良い参考になる。編纂者大川與朔に関する詳しい資料はまだ見つかっていないが、この著作を通して、大川與朔は音声学のレベルが高いことが実感できた。

参考文献

Davis D.H. & Silsby John Alfred (1900), *Shanghai Vernacular Chinese-English Dictionary*, American Presbyterian Mission Press

大川與朔 (1924 初版 / 1938 四版), 『活用上海語』, 上海 : 至誠堂書店。波多野太郎『中国語学資料叢刊 (第三卷第四篇尺牘・方言研究篇) 全四卷』(1986) に収録, 不二出版社。

——— (1938 四版), 『活用上海語』, 上海 : 至誠堂書店, 東洋文庫の館蔵。

趙元任 (1928), 《現代吳語的研究》, 科學出版社 (1956) 影印本。

新村出（1969），『広辞苑（第二版）』，岩波書店。

中國社會科學院語言研究所（1981），《方言調查字表》，商務印書館。

中嶋幹起（1983），『吳語の研究：上海語を中心にして』，東京：不二出版。

許寶華、湯珍珠（1988），《上海市区方言志》，上海教育出版社。

許寶華、陶寰（1997），《上海方言詞典》，江蘇教育出版社。

陈忠敏（1995），〈上海市区话语音一百多年来的演变〉，《吴语和闽语的比较研究》pp.18-31，上海教育出版社。

——（2018），〈再论160年前上海话声母[dz]/[z]变异——回应钱乃荣先生〉，《吴语研究第九辑》pp.2-13，上海教育出版社。

中川かず子（1998），「ローマ字と日本の近代化：ヘボン式に至るローマ字研究の歴史（〈特集〉共同研究報告：近代日本における文化・文明のイメージ）」、『北海学園大学人文論集10』pp.135-166。

飛田良文／李漢燮（2001），『和英語林集成初版・再版・三版対照総索引（全3巻）』第3巻，有限會社港の人。

石汝杰、（日）宮田一郎（2005），《明清吴语词典》，上海辞书出版社。

石汝杰（2006），〈19世纪上海音系和相关的问题〉，《明清吴语和现代方言研究》pp.243-259，上海辞书出版社。

——（2012），〈现代上海方言的多种来源和方言岛理论〉，《中国言語文化学研究》創刊号 pp.89-101

钱乃荣（2003），《上海语言发展史》，上海人民出版社。

——（2007），《上海话大词典（辞海版）》，上海辞书出版社。

——（2014），《西方传教士上海方言著作研究》，上海大学出版社。

——（2018），〈上海方言的“言”〉，《吴语研究第九辑》pp.344-348，上海教育出版社。

陶寰、高昕（2018），〈上海老派方言同音字汇〉，《吴语研究第九辑》pp.98-117，上海教育出版社。